

第2期 事業報告

2021年6月1日～2022年5月31日

一般社団法人
こども女性ネット東海

事業報告

1. 広がる・つながる事業

(1) 入会促進活動の実施

こども女性ネット東海は、平常時より子ども、女性分野で活動をしてきている個人、事業体がつながり、共に学び実践していくことをねらいの一つとしています。

期間:通年

正会員10名、協力会員35名

(2) 交流会の実施

会員が中心となり、オンライン等で交流会を開催しました。

期間:通年

(3) facebook、メルマガによる情報発信

会員のみならず、政府・行政関係者、企業に対しても、「たすかる活動」、「たすける活動」の情報を発信しました。

期間:通年

(5) HP の運営

こども女性ネット東海の趣旨と活動の本旨を伝えるために HP の充実を図りました。

期間:通年

2. 伸びる事業

(1) こども・女性目線の避難所運営女性リーダー養成講座

妊婦、乳幼児、こども、女性の避難生活において、どのような配慮が必要なのか。避難所開設のための準備の段階からこどもと女性の意見を取り入れること、避難所運営においても、こども・女性が主体的に関わることができるような運営をすることが重要である。

自らが住まう地域において、こども・女性目線で避難所の運営ができる女性リーダーを養成を行いました。

期日:2021年 7月11日(日)、7月18日(日)、7月24日(土)、
8月1日(日)、8月8日(日)

参加者:各28名

1日目 7月11日 (日)	① 被災地から学ぶ ② こどもの権利を学ぼう	・被災地で実際に起きた課題。被災地での取り組みを紹介する ・いざというときに動くことができるリーダーの条件とは ・こどもの権利について学ぶ	藤岡喜美子 (1.5 時間) 秋山則子 (1 時間)
2日目 7月18日 (日)	こどもへのケア	・長引く避難生活でのこどもの心のケアの重要性とケア ・高校生・小学生を主体とした、避難所運営事例の紹介	塩崎美穂様 (2.5 時間) 演習含む
3日目 7月24日 (土)	避難所運営を知る ～リーダーシップ、マネジメント～	・避難所に備蓄しておくもの、準備すること ・被災者を受け身にしない避難所のマネジメント	浦野愛様(2.5 時間)
4日目 8月1日	① 女性へのケア ② アレルギー対策	・女性への年齢に応じたケア ・災害時のアレルギーの知識と対策	五十嵐ゆかり様 (1.5 時間) 中西理映子様 (1 時間)
5日目 8月8日	わがまちではどうする 熊本地震でどうした!	・受講生のまちの避難所マニュアルを調べ、こども・女性目線で事前にどのような準備が必要かを発表する。 ・熊本地震、こども女性目線で何をしたかを聞く	コメンテーター ・藤岡喜美子 ・秋山則子 ・藤井 宥貴子 藤井 宥貴子様

<講師>

秋山則子さん

一般社団法人こども女性ネット東海代表理事

特定非営利活動法人三重みなみ子どもネットワーク 理事長

特定非営利活動法人三重県子ども NPO サポートセンター 副理事長

「チャイルドラインMIE ネットワーク」常任理事

すべてのこどもが、自分に誇りと自信を持ち、自ら考え責任を持って行動できるようになるために活動をしている。三重県少子化対策推進県民会議委員、みえ次世代育成応援ネットワーク運営委員、三重県医療審議会地域医療対策協議会委員、みえの学力向上県民運動推進会議委員、三重県人権施策審議会委員、公益財団法人三重県文化振興事業団理事等歴任。

浦野愛さん

認定 NPO 法人レスキューストックヤード常務理事

1976 年生まれ。静岡県静岡市出身。同朋大学社会福祉学部社会福祉学科卒業。阪神・淡路大震災では、同朋大学の学生が設立した支援サークル「同朋大学ボランティアネットワーク」に所属し、被災者支援にあたった。卒業後、特別養護老人ホームデイサービスセンターで寮母として勤務したのち、レスキューストックヤードの設立と同時に事務局スタッフとなり、2004 年度より事務局長、2009 年度より常務理事を務める。東日本大震災、長野県南木曾町土砂災害、熊本地震、九州北部集中豪雨等災害時要配慮者への支援事業を中心に、地域防災・災害ボランティア等、各種講演会・講座講師、支援プログラムの企画・運営を行っている。社会福祉士。内閣府「避難所における良好な生活環境の確保に関する検討会」委員（2012 年度）、愛知県「避難所運営マニュアル改定委員会」委員（2014 年度）等歴任

五十嵐ゆかりさん

聖路加国際大学ウィメンズヘルス・助産学 准教授

東京都新宿区、岩手県花巻市で助産師として勤務後、オーストラリアへ留学。シドニー大学看護学部卒業、修士課程修了。帰国後、神奈川県立保健福祉大学に勤務しながら外国人母子への支援活動を開始する。2010 年聖路加看護大学大学院博士後期課程修了。2010 年～聖路加看護大学（現：聖路加国際大学）に勤務し、現在に至る。2011 年 4 月 1 日～9 か月間、岩手県陸前高田市で女性への支援活動を行った。東京都「東京くらし防災」編集委員

塩崎美穂さん

東洋英和女学院大学 人間科学部 保育こども学科。

静岡県清水市生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学（教育学修士）後、お茶の水女子大学生活科学部講師、尚絅大学短期大学部幼児教育学科准教授、**日本福祉大学 子ども発達学部子ども発達学科 准教授**を経て、2014 年 10 月から現職。専門は教育学・保育思想史・比較文化論。著書には、『保育士養成講座 12 巻 保育者論』（全国社会福祉協議会、2012 年）『教育原理－保育実践への教育学的アプローチ』（樹村房、2010 年）『はじめて学ぶ乳児保育』（同文書院、2009 年）私たちが考える「すべての子ども」のための保育制度『現代と保育』（ひとなる書房、2012 年）などがある。

中西理映子さん

認定特定非営利活動法人アレルギー支援ネットワーク 常務理事

教育出版系企業に 6 年間務めたのち、結婚・出産。アレルギーを持つ子どもの母となったこ

とをきっかけに、「岡崎アレルギーの会」を設立。その後「アレルギーの会全国連絡会」への参加を通じて「NPO アレルギーネットワーク」に参画。2006年 NPO 法人アレルギー支援ネットワーク設立にともない、理事兼事務局長に就任。各地での患者会設立・運営支援、アレルギー大学の運営、普及啓発活動に奔走中。アレルギー支援ネットワークは東日本大震災、熊本地震など、被災地への支援活動を行い、アレルギー物資の提供の仕組みを行う。

藤岡喜美子さん

一般社団法人こども女性ネット東海代表理事

公益社団法人日本サードセクター経営者協会 (JACEVO) 執行理事

愛知県一宮市生まれ。東京海上火災保険(株)にて損害事故サービスセンター勤務。退社後地域のボランティア団体を複数立ち上げる。30代で婦人会長、その後町議会議員を務め、消防議員なども務め、地域防災組織に関わる。複数の自治体で政策アドバイザーを務める。子育て分野等で活動をする NPO 等の起業・経営支援には定評がある。保育スタッフ養成講座、子育て支援員研修、子育てリーダー養成講座等講師を務める。東日本大震災、熊本地震、佐賀豪雨などでは、発災直後速やかに被災地に向かい支援活動を行う。熊本地震においては、余震の連続の状態においてこども女性の支援のために、熊本こども女性ネットの設立支援とサポートを行う。東海地域で減災・防災、災害発災後の活動をするために一般社団法人こども女性ネット東海を立ち上げる。内閣府新しい公共の推進会議委員、経済産業省ひとつくりの切磋琢磨による地域創生実行会議委員、地域を支えるサービス事業主体のあり方に関する研究会委員、厚生労働科学研究(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)「病児・病後児保育の実態把握と質向上に関する研究」研究委員等政府委員歴任。愛知県避難所マニュアル検討会議委員など務める。著書は早わかり子ども子育て支援新制度(ぎょうせい)、稼ぐNPO～利益をあげて社会的使命へ突き進む(株式会社カナリアコミュニケーションズ)

藤井 宥貴子さん

(熊本県交流館パレア館長、熊本市男女共同参画センター館長、株式会社ミューズプランニング代表取締役)

1964年熊本県生まれ。熊本市私立幼稚園勤務を経て、自らの育児体験を通して育児サークルを発足。1994年より熊本日日新聞社から発行する生活情報誌「くまにちすばいす」の特集企画および子育て情報の執筆を担当。2003年女性が子育てをしながら自分の能力を活かせる職場づくりを目指して、「有限会社ミューズプランニング」を設立。熊本市男女共同参画センターはあもにい館長(2012年より)熊本市ファミリー・サポートセンターセンター長(2013年より)を務め、現在は熊本県交流館パレア館長。熊本県民カレッジ運営審議会委員・熊本県女性の社会参画加速化会議委員 熊本大学非常勤講師(ジェンダー学入門)。4月14日16日の熊本地震発生以後、多くの子どもや女性たちの笑顔が不安な表情へと様変

わりし、復興までの長い道のりの中で、この女性や子どもの声なき声が見落とされることのないよう、『熊本子ども・女性被災者支援ネット』を立ち上げる。

(2) 子育て支援者技能講習

愛知県シルバー人材センターの委託により、シニアの方につどいの広場事業、一時預かりなど子育て支援の現場で活動する支援者の養成講座を行いました。シニアのゆっくりとした時間の流れを大切にしながらも、こどもの発達について、配慮が必要なこどもについての発達、こどもの権利、遊びの大切さを正しく理解して頂きました。

① 阿久比町子育て支援者技能講習

日時：2021年10月20日（水）9：45～15：30

場所：阿久比町オアシスセンター3階 集会室
知多郡阿久比町大字卯坂丸の内85

参加者：5名

② 名古屋市子育て支援者技能講習

日時：2022年1月19日（水）、2022年1月27日（木）

場所：名古屋市高齢者就業支援船や一 第一研修室

参加者：各20名

(3) 放課後児童支援員補助員研修

愛知県シルバー人材センターからの委託により、放課後児童クラブの補助員養成を行う。放課後児童クラブで、ボランティアや補助員を行おうとするシニアがこどもの発達について、配慮が必要なこどもについての発達、こどもの権利、遊びの大切さを正しく理解して頂きました。

① 子育て支援者技能講習 豊橋市子育て支援者技能講習

日時：11月18日（木）、19日（金）9：30～15：30

場所：アイプラザ豊橋

参加者：14名

② 江南市子育て支援者技能講習

日時：12月20日（火）、21日（水）9：30～15：30

場所：江南市シルバー人材センター

参加者：20名

(4) 放課後児童支援員キャリアアップ研修

「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」（平成26年厚生労働省令第63号）に基づき、放課後児童健全育成事業所（放課後児童クラブ）に配置されている放課後児童支援員等に対して必要な知識及び技術の習得のための

テーマ	日付	会場	参加者	遅刻	早退
テーマ1	1月26日(水)	一宮	30		1
		オンライン	88	1	10
	2月22日(火)	名古屋	37	1	3
		オンライン	80		3
	2月25日(金)	岡崎②	34		
		オンライン	52		6
テーマ2	11月8日(月)	名古屋	44		
		オンライン	104	3	3
	12月7日(火)	豊橋	18		1
テーマ3	11月12日(金)	名古屋	61		1
		オンライン	108	1	
	12月3日(金)	岡崎①	45		
		オンライン	109		3
テーマ4	11月17日(水)	一宮	34	1	
		オンライン	74		3
	12月9日(木)	名古屋	40		1
		オンライン	100	1	8
	2月2日(水)	豊橋	7		
		オンライン	5		

研修を実施することにより、放課後児童健全育成の資質向上を図りました。

原則、経験年数概ね5年以上の放課後児童支援員に対し、集合会場とオンラインのハイブリット開催の研修を実施しました。集合会場は尾張地区6回、三河地区4回、オンラインは9回、平日に下記のテーマにて、1回あたり195分の研修を実施しました。

- テーマ1 「発達障害児など配慮を必要とする子どもへの支援」
- テーマ2 「子どもの人権と倫理」
- テーマ3 「子どもの発達の理解」
- テーマ4 「災害時・緊急時の対応、緊急時のアレルギーの対応」

申込総数 781 名 受講生総数 724 名

各テーマの満足度は、「非常に満足」と「満足」が93%でした。特にテーマ①「発達障害児など配慮を必要とする子どもへの支援」テーマ③「子どもの発達の理解」は95%以上の方は「非常に満足」「満足」と特に評価が高い。ワークショップ満足度は、「非常に満足」と「満足」が60%となりました。他の市町村、施設の方との交流が有意義な時間でしたという声が多くありましたが、一方でもっと交流の時間がほしいという意見もありました。オンラインでは、ブレイクアウトセッションを用いてグループワークを行っていたため、初めての経験の方が多く、直接お会いしてないので意見を出しにくかったという声もありました。

研修の内容が今後にかせるかどうかは「大いにかせる」が74%、「少しにかせる」が25%、合計99%であり、有意義な内容となったと思われます。

またテーマ①テーマ③では「ギフテッドチルドレン」について15分ほどお話しをしたが、アンケートでも「ギフテッドチルドレンを初めて知り、勉強になった。」「思い当たる子がいるので納得しながら話を聞いた」など意見が多くありました。今後学びたいにも「ギフテッドチルドレン」と記載した方が27名みえ、皆様の関心が強いことがうかがえました。

(5)こどもの体験セミナー

災害時に温かい食事を、体験セミナー

第1回 8月21日(土) パルモ男女共同参画センター
(愛知県豊橋市)



第2回 10月17日(日) 伊勢市明照児童館 (三重県伊勢市)



第3回 11月3日(木) 大高緑地公園 (愛知県名古屋市)



第4回 11月4日(金)鳥羽市保健福祉センターひだまり(三重県鳥羽市)



第5回 11月6日(日)みんなのおうち連尺(愛知県岡崎市)



第6回 3月25日(金)天彩ハウス(愛知県名古屋市)



(6) こどもの権利を伝える

「こどもの権利を知っていますか」「虐待をなくそう」啓発イベント
オレンジフェスタに参加し児童虐待のキャンペーンと同時に、こども女性ネット東海
として、私設の自主避難所開設のための啓発活動を行いました。

いざという時のためにトイレについて特定非営利活動法人CONNECTさんの協力を
いただき実演をおこないました。

防災クイズに参加して頂き、正解者には携帯トイレと防災食を配布しました。

(7) 講師派遣事業

防災・減災の活動について、講師を派遣。

日頃より、良い保育、良い育成支援をしている組織が、災害発災時に柔軟に必要な
対応ができる。人材養成、組織マネジメント等に関して、講師を派遣しました。

実施回数:1回

派遣先:三重防災会議

(8) 起業支援・経営支援

こども女性分野、まちづくりの活動をしている NPO 等の起業支援・経営支援を行った。

実施団体:1団体

(9) 拠点整備事業

NPO 等に対し、人と人とのつながり、組織と組織のつながりをつくるために活動拠点を提供しました。

提供回数:2回 おにぎりにぎり隊、おにぎり食べ隊のみなさん。

3. 声をだす事業

(1) 行政・企業などへの提言活動

政府・行政、企業などへの提言活動を実施。

こども・女性が安心できる私設の自主避難所について愛知県に提言を行いました。

提言回数:1回

(2) NPO 等との協働事業の提案

こども・女性が安心できる指定避難所、自主避難所の在り方を考えるとともに、私設の自主避難所として場所を提供していただける団体との提携を結びました。

提携数:19施設

4. 組織運営について

中部プロボノセンターからのサポートを受けて、組織の中期戦略について検討しました。



プロボノメンバーの方がたくさん質問してくれたことで頭の整理ができました。

<プロボノからの活動の感想>

○井上隼輝さん(サンゲツ)

家族から「プロボノはボランティアとどう違うの?」「話し合うより実際に身体を動かして参加したほうが効果あるんじゃない?」と言われ、改めてプロボノとは何なのか…活動中に自分自身考え直すきっかけがありました。ただ CWNT さんへの支援を通して、ボランティアではなく「プロボノ」として良い支援ができ、自分自身の成長にも生かすことが出来たと感じています!

○大野雅子さん(住友理工)

活動前半の分析はとても難しくついていくのに精一杯でしたが、回りまわって自分が必要と感じていた考えがズレていなかったのが安心しました。誰かを救う良い活動でも知られないとそこで終わってしまい、伝える伝わるのがとても重要だと実感しました。活動と通じて自身も防災についての見方が変わり、CWNT からの学びを活かしていきたい。

○可須水一史さん(住友理工)

コロナ禍のため、初対面の方通しがリアルなしで活動するという未経験の取組でした。そんな中でのコミュニケーションは、改めて『聴く力』の大切さ、自分事で目的を共有すれば大きな力を生み出すことを実感しました。今後も楽しくチャレンジしていきます。

○川崎和人さん(住友理工)

「付加価値を出せているのか?」焦りと不安を抱えながらも傾聴に3か月を費やしたのが結果的に良かったようです。団体さんとメンバー皆さんのおかげで、組織の価値の源は「目的を明確にした仕組みづくり」ということを改めて実感できました。

○西山佐知子さん(住友理工)

学校には普段から子供がお世話になっていて、企画の持ち込みもしやすく、私にとってはやりやすかったです。子供の学校で実際に授業をやってもらえる予定なので、最終発表後も取り組みを続けていきたいと思います。

○林洋介さん(住友理工)

終盤は他のことで忙しくなってしまう、ほとんど活動できませんでしたが、他のメンバーのおかげで、なんとかやり切れました。いまだにCWNTの役に立ったのかわかりませんが、個人的には他に生かせる良い経験ができました。

以上